

Windows 10 デバイス 共通アプリでHello World!

山本 隆一郎

Windows 10 IoT Coreの処理性能を確かめるべく、最新64ビットARMボードDragonBoard 410cや、ラズベリー・パイ2、PC、タブレットなどで簡単なベンチマーク・ソフトウェアを実行してみます(写真1)。

実行時のハードウェアの構成を図1、ソフトウェアの構成を図2に示します。(編集部)

Windows 10 デバイス共通 UWPアプリの作り方

最初に、プログラムを作成して動かしてみましょ。ここでは簡単な例として、ボタンを押すとテキスト・ボックスにHello World!と表示されるUWP(Universal Windows Platform)アプリを作ってみます。

UWPアプリは、Visual Studio 2015を使って開発します(Visual Studio 2015のセットアップについては、コラム、Appendix 2のテンプレートおよび第2特集の第2章を参照)。

● ステップ1: Visual Studioプロジェクトを作成する

「ファイル」→「新規作成」→「プロジェクト」で「新

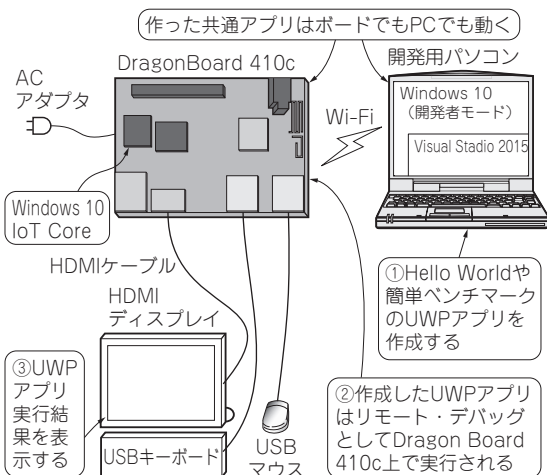


図1 Windows 10 デバイス共通アプリ開発環境の構成 (ハードウェア)

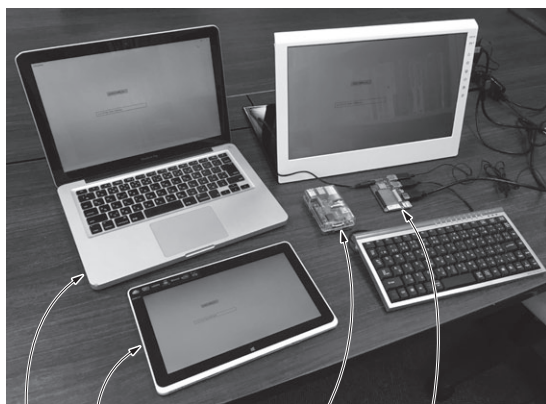


写真1 Windows 10 コンピュータの処理性能を確かめてみる

しいプロジェクト」の画面が表示されます(図3)。

プログラミング言語を選びます。今回は、最終的にはベンチマーク計測を行いたいので、「C++」を使用します。画面左の「インストール済み」にある「テンプレート」→「Visual C++」→「Windows」から「空のアプリ(ユニバーサルWindows)」を選択し、名前を付けてプロジェクトを作成します。今回は、名前を「IoTCoreTest」とします。ベンチマーク計測の詳細は後述します。

するとひな形が作成され、図4のように、画面右上

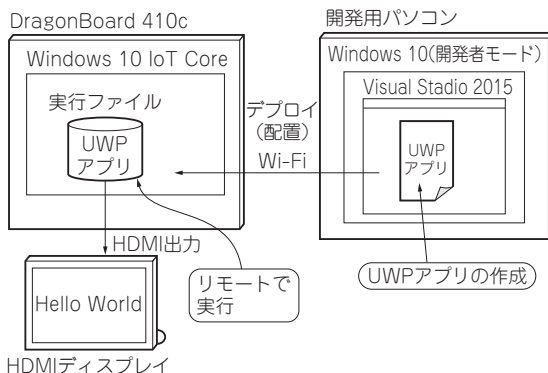


図2 開発環境の構成 (ソフトウェア)